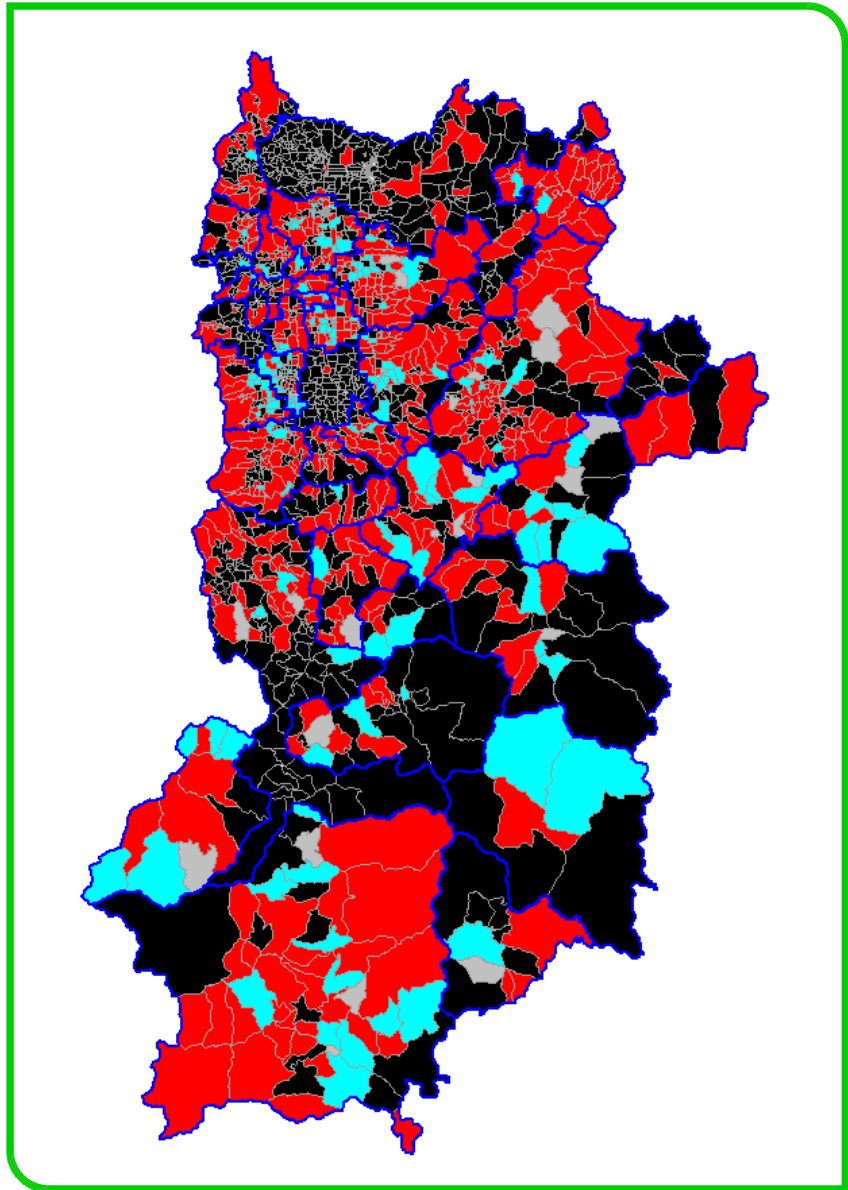


農業・林業集落アンケート調査によるアライグマの生息状況・被害状況 (平成28年度)

1. 平成28年度の農業集落アンケート調査によるアライグマの分布



図は、平成28年度の農林業集落アンケート調査による、アライグマの分布である。

農業集落でアライグマが「いる」と回答があった場合に「分布している」とする。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

本年度も県内の広い範囲から「いる」との回答があった。県北部から県中部を中心に、既に県内の広い範囲で生息していることがわかる。

・平成28年度

■ いる	561集落
■ いない	154集落
■ 回答無し	24集落
■ 回収無し	1069集落
全	1808集落

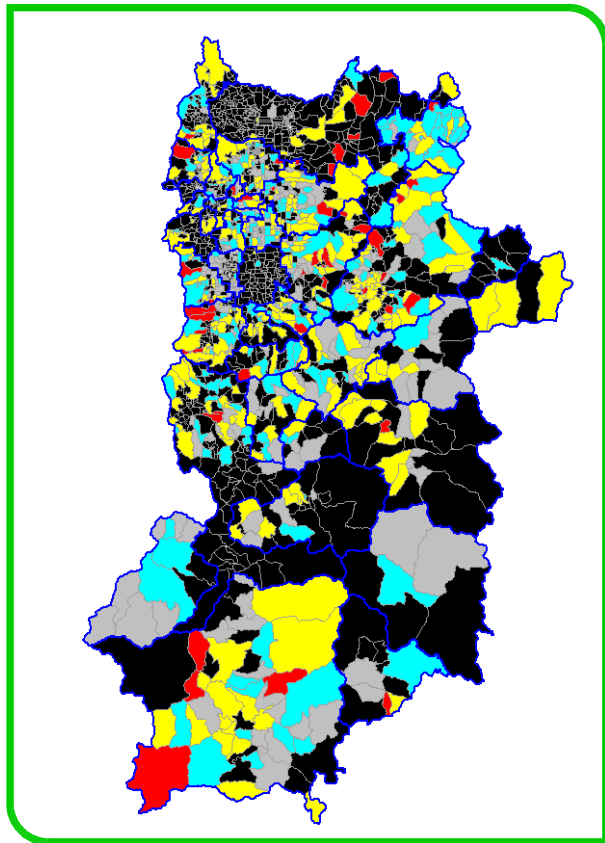
参考)平成27年度

■ いる	485集落
■ いない	175集落
■ 回答無し	29集落
■ 回収無し	1119集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界
市町村界内側の線 大字・地区界
 市町村界、大字・地区界の凡例は以降の図も同様である

アライグマの生息数が少ない侵入初期には、被害も少ないため対応が後手になりがちである。そして、被害が顕在化してから捕獲を実施することが多いが、その時点で既にアライグマは個体数を増加させている。アライグマの産仔数は年に約3～7頭と多産であり、例えば10頭生息しているとすると9頭までを捕獲しなければ個体数を低減させることはできない。アライグマは本来は北米大陸に生息する動物であり、日本の自然界に存在するものではないため、「外来生物法」で「特定外来生物」に指定されている。外来生物法の「防除計画による捕獲」、鳥獣法の「有害捕獲」によって、積極的に捕獲を実施し、アライグマを地域から排除しなければならない。奈良県内の39市町村のうち、北部の市町村を中心に24市町村で外来生物法の防除計画を策定し、防除に努めている。

2. アライグマの農地・集落周辺への出没状況(平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、アライグマの農地・集落周辺への出没状況である。

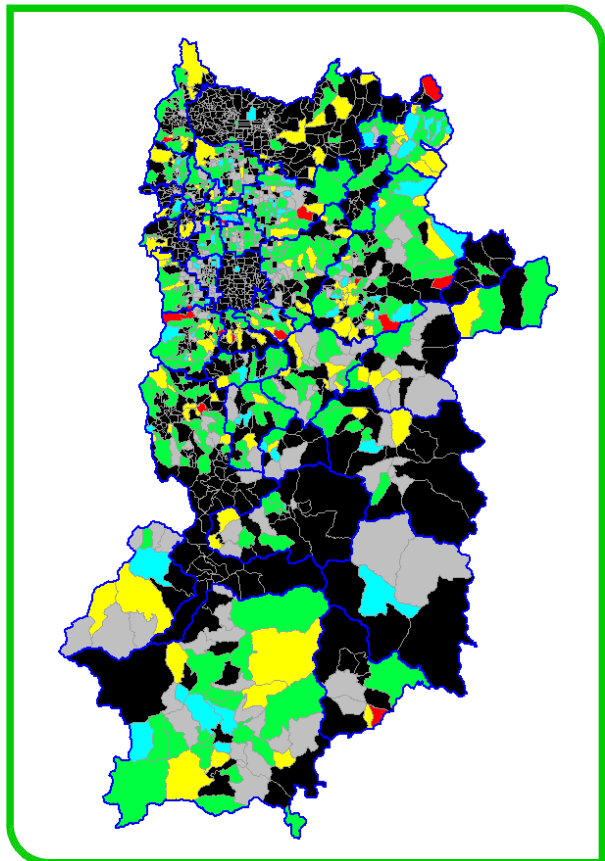
アライグマが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」、「たまに見る」との回答は、県中部や県北部で多い傾向にある。

・平成28年度	
よく見る	43集落(8.0%)
たまに見る	278集落(51.9%)
あまり見ない	215集落(40.1%)
計	536集落

参考)平成27年度	
よく見る	38集落(8.2%)
たまに見る	241集落(52.2%)
あまり見ない	183集落(39.6%)
計	462集落

2. アライグマによる農業被害の大きさ(平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

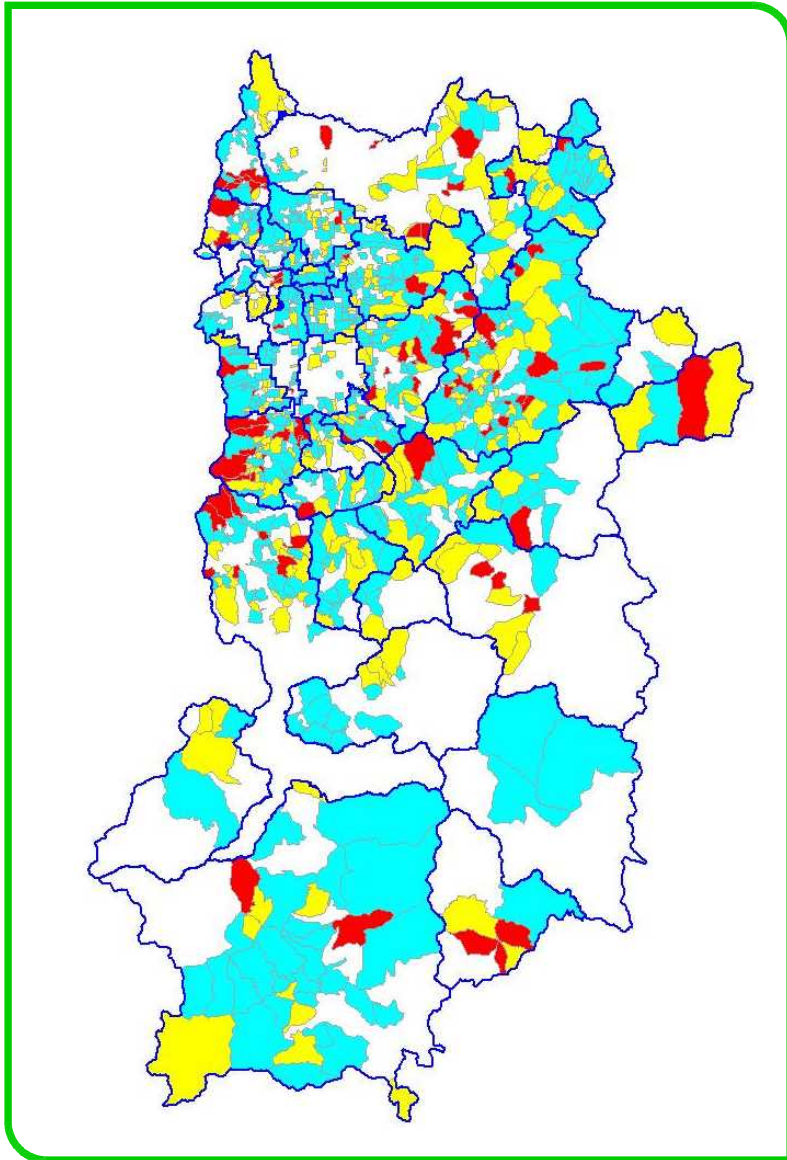
アライグマの被害は、農地・集落周辺への出没が多い県北部・中部地域を中心に発生している。

被害の大きさは、前年度と同様に「軽微」という回答が約60%と最も多かった。「大きい」または「深刻」という回答は併せて約25%存在し、局所的には大きな被害となっている。

・平成28年度	
ほとんど無い	82集落(14.9%)
軽微	330集落(60.1%)
大きい(生産量の30%未満)	122集落(22.2%)
深刻(生産量の30%以上)	15集落(2.7%)
計	549集落

・参考)平成27年度	
ほとんど無い	68集落(14.3%)
軽微	294集落(61.9%)
大きい(生産量の30%未満)	94集落(19.8%)
深刻(生産量の30%以上)	19集落(4.0%)
計	475集落

3. アライグマの農地・集落周辺への出没動向(平成24~28年度の5年間)



左図はアライグマの農地・集落周辺への出没の5年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのアライグマの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ているが、これらの回答を「よく見る」は+1、「たまに見る」は±0、「あまり見ない」は-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、-1以下の場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落に色をつけた。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。なお、空白は調査した5年間、アライグマがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

アライグマの農地・集落周辺への出没は、県北東部から県中部、県西部、そして県南部の一部地域で局所的に多くなっている。

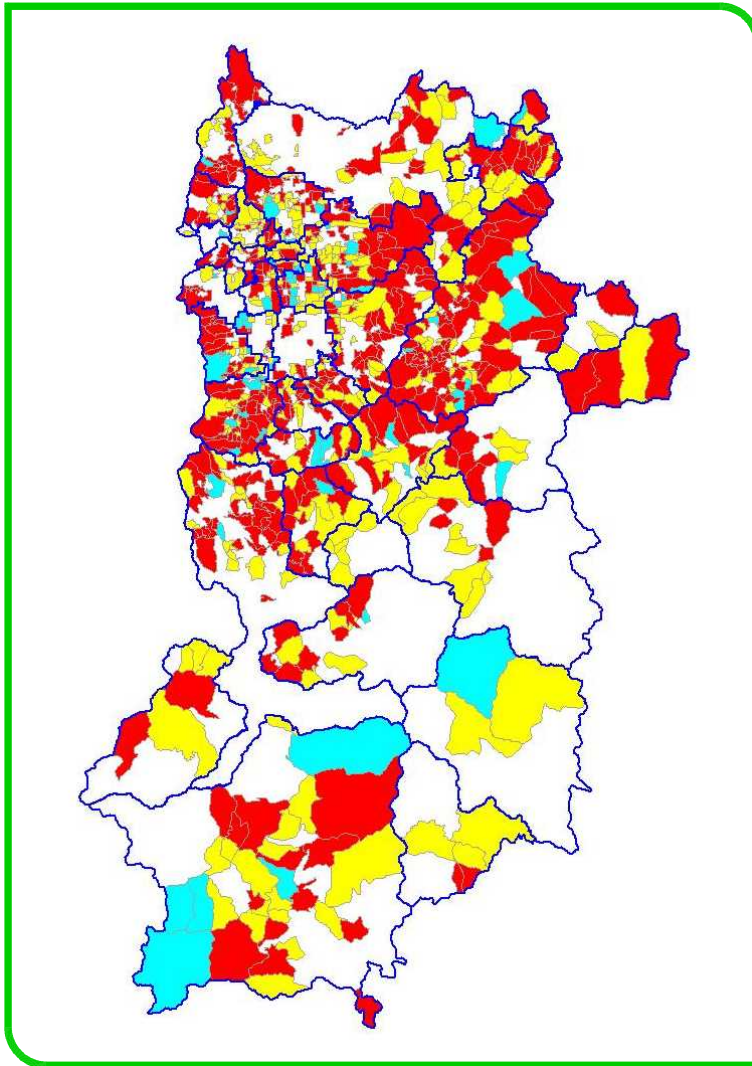
・平成28年度までの5年間

よく見る	88集落(10.4%)
たまに見る	259集落(30.7%)
あまり見ない	497集落(58.9%)
回答数	844集落

・参考)平成27年度までの5年間

よく見る	84集落(10.4%)
たまに見る	250集落(30.8%)
あまり見ない	477集落(58.8%)
回答数	811集落

4. アライグマの農業被害意識の動向(平成24～28年度の5年間)



左図はアライグマによる農業被害の意識の5年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害を前年度(初年度調査時のみ10年前と比較して)より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ているが、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまり増えている場合)は赤色で、0の場合(つまり変わらない場合)は黄色で、-1以下の場合(つまり減っている場合)は青色で各集落に色をつけた。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した5年間、アライグマがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

アライグマによる農業被害の意識は、ごく一部では減っているものの、回答を得た集落のうち半数以上の約53%が増えたととなり、依然として農業被害は県全体で増加傾向にあることが判る。特に県北部・中部において増加傾向にある。

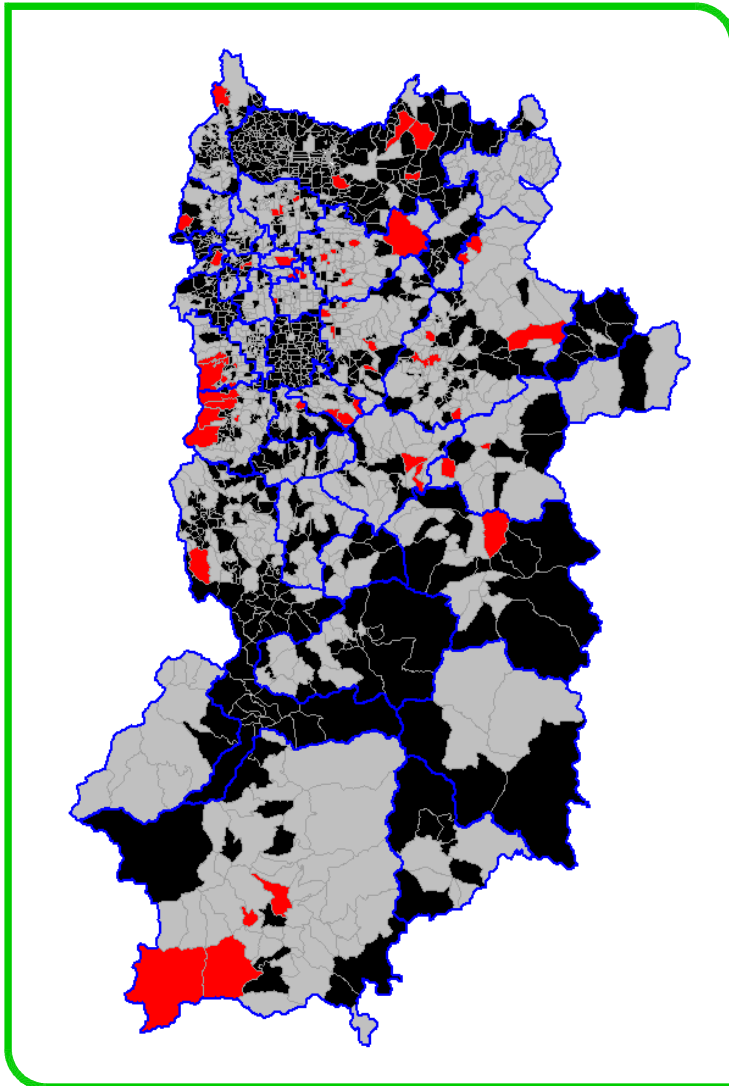
・平成28年度までの5年間

■ 増えた	447集落(53.2%)
■ 変わらない	329集落(39.1%)
■ 減った	65集落(7.7%)
回答数	841集落

・平成27年度までの5年間

■ 増えた	418集落(52.0%)
■ 変わらない	321集落(39.9%)
■ 減った	65集落(8.1%)
回答数	804集落

5. アライグマによる衛生被害(平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、アライグマによる衛生被害の意識調査の結果である。

本設問では、「家屋に住み着く、糞尿被害がある」を衛生被害とした。

県北部・中部を中心に、衛生被害があると回答があった。

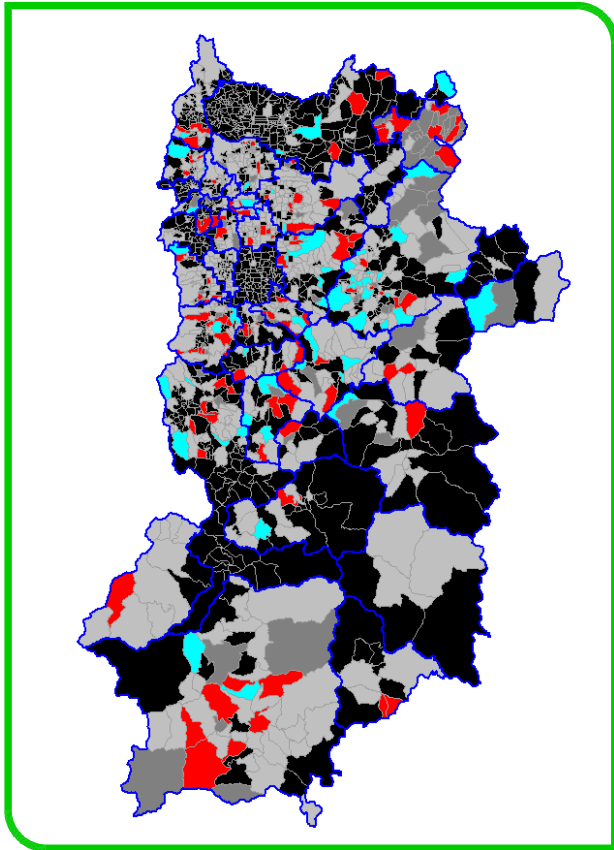
・平成28年度
■衛生被害がある 61集落

参考)平成27年度
■衛生被害がある 65集落

参考)平成26年度
■衛生被害がある 57集落

参考)平成25年度
■衛生被害がある 31集落

4. アライグマの被害対策 侵入防止柵(防護柵)の設置の効果(農地・平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、アライグマ侵入防止柵(防護柵)の設置の効果の意識調査の結果である。

回答のうち約65%が、侵入防止柵(防護柵)による被害対策は効果があったということであった。

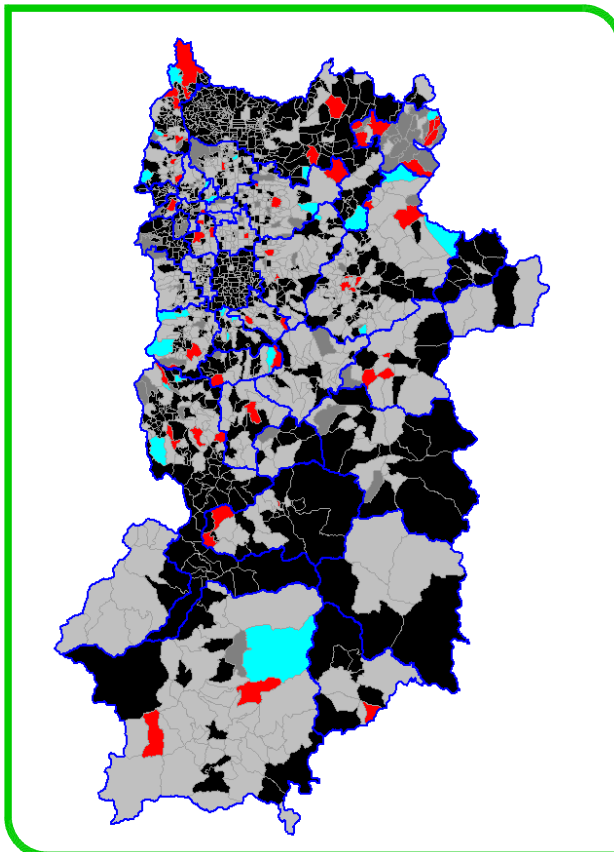
・平成28年度

■ 効果があった	104集落 (64.6%)
■ 効果がなかった	57集落 (35.4%)
回答	161集落

参考)平成27年度

■ 効果があった	86集落 (61.9%)
■ 効果がなかった	53集落 (38.1%)
回答	139集落

5. アライグマの被害対策 有害捕獲の効果(農地・平成28年度)



左図は平成28年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

効果の有無の回答のうち約 %が、有害捕獲による被害対策は効果があったということであった。

・平成28年度

■ 効果があった	54集落 (69.2%)
■ 効果がなかった	24集落 (30.8%)
回答数	78集落

参考)平成27年度

■ 効果があった	43集落 (71.6%)
■ 効果がなかった	17集落 (28.3%)
回答数	60集落